

平成30年度 第1回佐賀市地域公共交通会議議事録

開催日	平成30年5月21日（月）10:00～11:00	
出席者	委員	畑瀬会長、三木委員、（黒田委員代理）白津委員、（高松委員代理）亀崎委員、松尾委員、牛島委員、伊東委員、小城原委員、副島委員、山口委員、五十嵐委員、横尾委員、（藤本委員代理）村田委員、山崎委員、藤崎委員、濱野委員
	事務局	武藤企画調整副部長、武富企画政策課長、田中交通政策室長、小林交通政策副室長、井上交通政策主査、納富交通政策主任
欠席者	江上委員、木下委員、貞富委員	
議事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域内フィーダー系統確保維持計画の認定申請について</li> <li>・佐賀市における地域内交通のあり方検討について</li> </ul>	
傍聴者（公開）	なし	
報道機関	なし	

【議事：地域内フィーダー系統確保維持計画の認定申請について】

事務局から説明（割愛）

<質疑>

○委員

三瀬地区コミュニティバスは村内2路線と村外の合計3路線あるが、補助要件に基づいて、路線毎に補助が決まるのか。それとも3路線全体で補助の有無が判断されるのか。

●事務局

三瀬地区コミュニティバスについては、村外路線のみ国庫補助を頂いている。したがって、資料3の1ページに掲載の、1往復あたりの利用人数2人以上という補助要件は、村外系統だけにかかってくる。

○委員

この補助要件は、10月～9月の実績で判断されるのか。4～3月の実績で判断されるのか。期間の違いによって、補助要件をクリアできないという恐れはないか。

●事務局

補助要件は、10月～9月の実績で判断される。現在、平成29年10月から30年4月分までの実績が出ているが、その実績では補助要件の2人を超えており、このペースで

いくと、補助要件にあてはまると認識している。

○委員

地域内フィーダー系統の機能としては、地域間幹線系統への接続が考えられるが、昭和バスの地域間幹線系統へのよい影響は出ているか。

●事務局

三瀬の高校生がコミュニティバスで三瀬支所から富士大和温泉病院まで移動し、昭和バスの古湯線に乗換されているので、地域間幹線系統の利用に繋がっていると考えている。復路についても、部活や学校が終わった時間帯によって、昭和バスの三瀬線とコミュニティバスを使い分けておられるので、三瀬線の利用増にもつながっていると考えている。

○委員

富士町コミュニティバスについてはどうか。

●事務局

富士町コミュニティバスは、社会福祉協議会のイベントに合わせた時間で運行しており、利用者が減少傾向にある。現状ではご指摘の部分があまりできていないため、今後も高校生をはじめとした、様々な方が利用できる形を検討していきたい。

#### 議事1について同意

#### 【議事2：佐賀市における地域内交通のあり方検討について】

事務局から説明（割愛）

<質疑>

○委員

公共交通が不便な地域にコミュニティバスやデマンドタクシーを導入することが前提か。

●事務局

まず公共交通が不便な地域が、どのような特徴をもっているか研究したい。そして、様々な移動手段確保策のメリット、デメリット、費用等を分析したい。

その上で、路線バスへの接続を念頭に置きながら、様々な移動手段確保策の中から、それぞれの地域に適した確保策を、地域の方と話しあって選択していく仕組を2年間かけてつくっていききたい。そのため、コミュニティバス等の手段が決まっているわけではない。

○委員

現状としては、人手不足により現在のバス路線を維持するのが困難である。今年度、来年度に手を打たないと、路線維持も難しい。スケジュールを考える際に配慮をお願いしたい。

●事務局

本市の公共交通の軸は路線バスだと考えている。仕組を検討していく際も、事業者のみなさんの現状やご意見を踏まえながら進めていきたい。

○委員

公共交通が不便な地域のエリア分けにあたり、データで計測できない部分をどう反映していくか。

●事務局

まずは、公共交通が不便な地域の現状を客観的なデータで分析していくが、その後は直接地域の方からニーズを伺い、協議をしていくことで、地域にあった移動手段確保策を選んでいきたい。

○委員

今回の研究は外部委託するのか。それとも、市独自で研究するのか。

●事務局

他の自治体の事例等を参考にしながら、外部委託したいと考えている。

**議事2について同意**

【その他】

○委員

毎日のように車椅子の方はバスを利用されている。障がい者の方を交通会議委員に加えていただけないか。

●会長

障がい者団体を入れるのか、直接障がい者の方を入れるのかを含めて、事務局で検討させていただきたい。